

事務事業評価表

■Plan (計画)

1.事務事業整理シート番号

3

2.作成年月日

平成26年11月7日

3.主管課・係名

健康保険課 健康推進係

A.事務事業の名称

いきいきスタンプラリー事業

4.評価年度

平成25年度

5.開始年度

平成25年度

6.終了年度

未定

B.予算事業名
(事業別予算名を記入する。)

健康推進事業

7.予算科目

款

4

項

1

目

7

C.事業区分

8.事務の種別

☐ 自治事務(義務)
☒ 自治事務(任意)
☐ 法定受託事務

9.補・単の種別

☐ 補助事業
☐ 国庫
☐ 県費
☒ 単独事業

10.根拠条例等

健康増進法 第17条第1項および第19条の2

D.総合振興計画
(第4次総合計画から記入する。)

11.政策目標

1 支えあい、生きがいあふれる健康のまち

12.政策

1 生涯を通じた健康づくり

13.施策目標・数値目標
がある場合はそれを記入し

がん検診等の受診率 50%を目指して啓発事業として実施。

14.主要施策名

1 主体的な健康づくりの推進

15.事業群

3 健康意識の高揚

■Do (実施)

E.事務事業の概要
(当該事務事業の目的・対象・手段を記入する。)

16.事業の目的
(何を目的として事業を行うのか。)

検診を経年的に受診される方が多く、受診者の半数以上を占めている。しかし、新規の受診者を増やすことが重要であり、受診行動を継続させる必要がある。がん検診を1つのイベントとして捉え、多くの方に関心を持っていただく事でがん検診の受診率を高め、がんの早期発見・早期治療に繋げることを目的に実施する。

17.事業の対象
(誰を何を対象としているのか)

全町民およびがん検診受診者

18.事業の手段
(どんなやり方で事業を行ったのか)

町や職場で実施するがん検診を受診するごとにスタンプを押印し、対象となるがん検診をすべて受診された方には景品を贈呈。平成26年度は他の検診項目や介護予防を目的とした事業を追加して事業拡大している。将来的には全庁(町)的に関係機関を含めた実施を検討。(健康マイレージ事業)

F.費用の概要
(事務事業に投入したコストを記入する。)

区分

単位

平成24年度決算

平成25年度決算

構成比 %

平成26年度予算

19.事業費

千円

119

9.9

126

20.人件費 (単価*人工)

千円

1,081

90.1

719

a 正職員

千円

1,076

89.7

717

b 臨時職員

千円

5

0.4

2

21.総事業費(19+20)

千円

0

1,200

100.0

845

22.財源内訳

a 受益者負担

千円

0

0.0

0

b 国・県支出金

千円

0

0.0

0

c その他特定財源

千円

0

0.0

0

d 一般財源

千円

0

1,200

100.0

845

23.利用者数・対象者数

人

0

228

400

24.利用者(住民)1人当り経費(20/22)

円

5,263

2,113

25.受益者負担水準(21a/20)

%

0

G.指標
(事業の活動や成果を数値等で記入する。)

区分

平成24年度

平成25年度

達成率%

平成26年度

26.活動指標名

受診者数の推移
(全体の延べ受診者数)

目標

21,000

実績

5,557

目標

19,700

実績

6,082

30.9

目標

19,000

27.成果指数名

検診受診率

目標

50

実績

18.9

目標

50

実績

19.2

38.4

目標

50

28.活動結果・成果 (両指標に関連して目的・目標にどれだけ近づいたか、効果はあったか)

景品交換者(受診対象のがん検診をすべて受診された方)は228人おり、男性71人・女性157人であった。スタンプラリーを通して、残りの検診の申込をされたりする行動が見られ、H25年度のがん検診受診率(受診者数)も子宮頸がん以外はどれも増加した。スタンプラリー事業が受診者数・受診率増加に効果があったといえる。

■Check (評価)

H.第1次評価 (担当部門による自己評価を記入する。)	個別評価	評価観点			評価〔(高)3・2・1(低)の3段階〕	
	29.妥当性 (目的や町の関与の妥当性、住民ニーズへの対応などの観点)	社会経済環境の変化の中で、事業の必要性は今でも変わらないのか		→	3	がん検診受診率増加につながった
		事業に対する住民ニーズにどのような変化があるのか			2	受診行動につながっている。
		国・県・民間など役割分担から町が実施することが妥当なのか			3	適正である。
	30.有効性 (事業効果や施策への貢献度、成果の向上度などの観点)	事業の成果が、上位施策の実現につながっているか		→	3	がん検診受診率増加につながった
		事業目標に向かって、成果への進捗状況は適正なのか			2	概ね適正である。
		活動内容が進捗状況と併せて有効な手段となっているのか			3	適正である。
	31.効率性 (費用対効果や手段の最適性や受益者負担の適正化などの観点)	最小のコストで効率的に事業が行われているか		→	2	無料配布の商品も組み合わせで景品贈呈している。
		コストをはじめ事業内容などに改善の余地はないか			3	スタンブラリーの対象事業を増加させていくことが必要で
		受益者負担は、社会情勢などに照らして適切なのか			3	適正である。
	32.総合評価 (上記の評価結果をもとに、目標と成果について、総合的に評価する。28、29、30の合計点により、自動的にチェックされます)	評価	評価定義(個別評価結果をもとに目標と成果を評価する。)			
			期待した以上の効果や成果が上がっている。(評価 25～27点)			
		●	概ね期待していた効果・成果が上がっている。(評価 18～24点)			
			期待している効果や成果までは到達してない。(評価 10～17点)			
			これ以上の効果・成果や目的達成は期待できない。(評価 9点)			

■Action (改善)

I.課題・予測 (実施上の課題・問題点や今後の社会環境やニーズの予測を記入する。)	がん検診の受診向上を図る目的でスタートした事業だが、今後はがん検診に限定せず対象事業を増やししながら『健康寿命の延伸』を目標に事業拡大を推進する。平成26年度から27年度の二か年を掛けて策定する『上里町健康づくり推進総合計画』の中に位置付け、健康・体力づくりだけでなく介護予防、地域参加を促すことを目標に計画する。なお、この事業を実現させるためには、引き続き関係各課と連携・調整しながら検討を進めていくことが重要である。
--	--

J.今後の展望 (評価結果により改善策について記入する。)	事業改革案	33.事業の展開	☒ 重点化(資源・コストの集中) ☐ 改善(関与・手続など見直し) ☐ 効率化(コストの削減) ☐ 統廃合(事業統合又は廃止) ☐ 簡素化(メニューなどを縮小) ☐ 現行(概ね現事業を踏襲)
		34.概要 (何を、何時までに、どのように)	平成28年度よりスタートする「上里町健康づくり推進総合計画(案)」に位置付けられるよう、平成27年度に行う計画策定の中で検討していく。その間は随時、関係各課の協力のもと対象事業を拡大させ、「健康マイレージ事業」として実施できるよう農協や商工会等の関係団体の協力・参加を交えた形で展開していく。
		35.期待される効果 (改革の実施によりどんな効果をえられるか)	①健康に関する事業の周知 ②検診受診者及び各教室等の参加者の増加及び新規開拓 ③町民の外出や交流のきっかけをつくり、健康増進につなげる。 ④健康大使「こむぎっち」及び「こむぎっちグッズ」の周知 ⇒町民の健康意識が高まることによって、疾病等の予防行動が増加し、医療費削減へとつながっていく。
		36.実施への留意点 (推進上、配慮や注意が必要なことは)	スタンブラリー対象事業を拡大させていくことで、他課との連携及び共通認識の確認が必要となる。

J-1.所属長 所見 (評価・今後の展望などに対する所見を記入する)	高齢化の進展に伴い、スタンブラリー事業の実施により、町民に生活習慣病の早期予防対策や疾病の早期発見・早期治療に取り組む意識づけにより、町民の健康増進に寄与し、健康寿命の延伸が期待できる。
--	---

※ 各課(局)等での記入は、J欄で終了です。

※ K欄の記入は、評価委員会の記入となります。

K.第2次評価 (内部評価委員会による評価を記入する。)	37.総合評価	☐ 創意工夫が必要 ☒ 充実 ☐ 改善 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 終了
	38.予算要求	☐ このままでよい
	39.人員配置	☐ 同額 ☒ 増額 ☐ 減額 ☐ 終了
	40.評価理由 (37.38.39での評価結果について主な理由を記入する。)	がん検診受診率向上の一つとして継続する必要あり。 本事業開始後は受診率も増加しており、一定の効果あり。 町民の健康増進の意識付けのためには、引き続き事業を行っていく必要あり。 以上を考慮した結果、引き続き事業を行う事が妥当と思われる。 ※事業を充実するためには、他の課の健康に関する事業も取り入れる必要があるため、他課との調整・連携が必要。